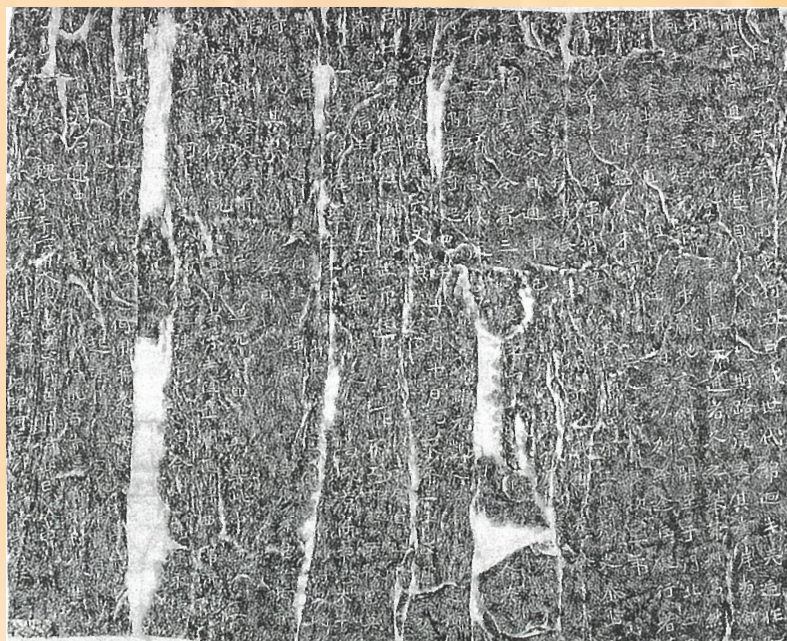
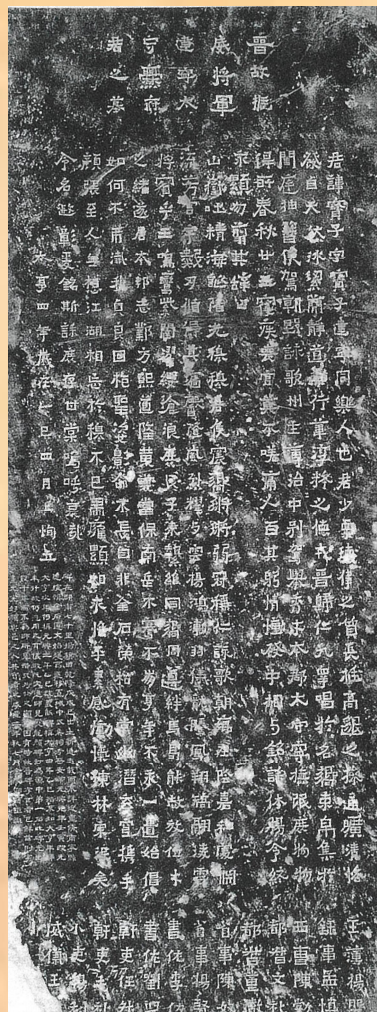


令和8年度 多胡碑記念館収蔵拓本コレクション展II

さんごく しん
「三国・晋・
なんぼくちょう じだい
南北朝の時代」



せきもんめい ほくぎ
石門銘（北魏/509年）

「石門洞」という隧道の竣工を記念して、摩崖に刻された銘文。書風は、「六朝楷書」である。

さんほうし ひ とうしん
燮宝子碑（東晋/405年）

郡の太守であった燮宝子の墓碑。碑文は隸書と楷書の間のような独特な書体である。

2026年

9/21（月・祝）～ 11/3（火・祝）

〒370-2107 群馬県高崎市吉井町池 1085

電話 027-387-4928 FAX027-387-8726

◎開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

◎休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)

◎入館料 無料(上野三碑 ユネスコ「世界の記憶」登録記念)



ユネスコ「世界の記憶」

多胡碑記念館収蔵拓本コレクション展Ⅱ

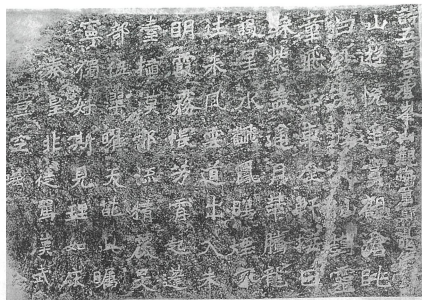
「三国・晋・南北朝の時代」

多胡碑記念館では、平成8年(1996)の開館以来、多くの拓本を収集してきました。このうち上野三碑に通じるとも考えられる古代中国の石碑・石刻の拓本類は、本館の主要な収蔵品群の一角を成しています。

今回、その収蔵拓本コレクションの一部を「三国・晋・南北朝の時代」と題して展示いたします。

本展示を通じて、古代の人々と「文字」との関わり、「文字」を石に刻み、文章を成した石碑を建てるという行為について、改めて振り返ると同時に、上野三碑への理解をいっそう深めていただく機会となれば幸いです。

【主な展示資料】



かんかいどうし
観海童詩（北魏/鄭道昭）
雲峰山の西峰にある摩崖。鄭道昭が雲峰山からの眺望を神仙境になぞらえ、海童（海の怪神）を題材とした詩。

きふくじひ
暉福寺碑（北魏/488）
北魏の高官の王遇が造営した暉福寺に建てられた石碑。碑文には寺の由来や壮観な情景が記されている。

そのほか

- ・ 広武將軍碑 …前秦（368 年）
- ・ 中岳嵩高靈廟碑 …北魏（456 年）
- ・ 高貞碑…北魏（523 年）
- ・ 白駒谷遊槃題字…北魏・鄭道昭

などの拓本を展示予定です。

（都合により期間中に展示替えをする場合あり）



- JR 高崎駅から車で約 15 分
- 上信電鉄吉井駅から車で約 5 分、徒歩で約 30 分
よいバスで約 10 分（東谷・西吉井線「多胡碑記念館前」下車）
- 上信越自動車道 吉井 I.C から車で約 7 分

令和8年(2026)は、上野三碑の一つ金井沢碑が神亀3年(726)の建立から 1300 年、そして多胡碑記念館も、平成8年(1996)の開館から 30 周年を迎える記念すべき年となりました。皆様のご来館をお待ちしております(入館無料)。